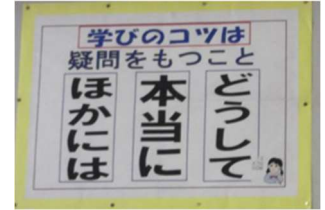




## ○「小さな挑戦 小さな気遣い 大きな志」(1学期終業式講話抜粋)

新型コロナウイルス感染症が5類感染症となり、学校生活も徐々に落ち着いてきた1学期だったと思います。これまで、過酷な状況であっても、落ち着いてきた状況であっても自分を律して真摯に学習や部活動に取り組んでくれたみなさんに敬意を表します。基本的な感染症対策は継続して必要ですが、明るい未来を信じてがんばっていきましょう。



総体をはじめ3年生にとっては締めくくりの大会が1学期には多くありました。結果が出た人、出なかった人など様々ですが、一人一人のこれまでの頑張りや活躍が、松江東高校にいる生徒、教職員の誇りとなったことは確かです。ローマは一日にしてならず。学問に王道なし。継続は力なり。雨垂れ石を穿つ…地道な努力の大切さはいろんな言葉になって表現されています。やりきることの大切さややりきった時に感じる充実感を味わった人は、次の道に進んでも強いと思っています。3年生の背中を追いながら、1・2年生もがんばってください。師弟同行がモットーの松江東高校です。先生方にも「今年の小さな挑戦は何ですか」と聞いています。「隗より始めよ」という言葉があるように、生徒のみなさんに背中を追ってもらえるように私も含めてがんばっていきたくと思っています。そんなことをそれぞれが誓い合う機会に今日の終業式がなればと思っています。

今年度の合い言葉とした「小さな挑戦、小さな気遣い、大きな志」については、始業式や入学式などでもお話ししてきました。小さな挑戦とは、新しいことへの挑戦だけでなく、堅実な努力の積み重ねという意味も含んでいます。小さな気遣いとは、周囲への意識の強さとも言えます。挨拶も同じです。周囲に気づく力がなければ自ら挨拶することはできないでしょう。学習も同じです。秋田の小中学校を訪れた際、よく目にした掲示物が、「学び方のコツは、どうして、本当に、ほかに」という疑問をもつこと」というものでした。あたりまえのことをあたりまえと思わない感性、疑問をもつこと。それを追究、探究することが学びの上ではとても大事だと感じます。そのためにも、人には思いやりを持ってください。気遣いができる人は、人間力、社会力だけでなく、学力もつくと思っています。人の痛みや気持ちがわかる人は、学習においても感性が豊かで課題を追究する力が高いと私は思っています。そういう人は、社会に出ても信頼されます。人の悪口を言う人、気遣いができない人は、自分にはおねがってきます。その逆もまたしかりです。大きな志をもってください。目の前の不満やいらだちにとらわれて、小さな人間にならないようにしてください。小さな挑戦、小さな気遣いに心がけ、大きな志をもって努力してください。私たちは、コロナ禍にあって、人への気遣いの大切さを学びました。誹謗中傷でなく、助け合うことの大切さをあらためて学んだはずです。不定期発行の校長室だよりの名前は「絆」です。2011年の東日本大震災からの復興において大事にされた言葉です。みなさんの多くはまだ小さくあまり記憶がない人も多いと思います。あの時日本に住む多くの人が、命の大切さを身にしみて感じました。助け合うことのすばらしさを感じました。それから10年後に私たちは再度コロナ禍でそのことを再認識しました。大事にしたい言葉です。